

# 新大宮商店街 出店ラッシュ



京都市北区の新大宮商店街で、今年に入り新規開業が相次いでいる。絵本カフェやチョコレート店など6店が進出し、さらに数件の計画がある。出店ラッシュを追い風に、商店街全体のにぎわい創出を目指す取り組みも計画されている。

絵本カフェ

チョコ製造販売

ゲストハウス



同商店街は北大路通から北山通までの大宮通沿い約1.5kmにあり、市内で最も長い商店街として知られる。商店街振興組合の組合員はピークの1

970年代に約240店を数えたが、大型店との競合や後継者難などで閉店が続き、現在は約120店に半減している。

10月上旬には、チョココレト製造販売会社「Dari K(タリケー)」の本店が京都三条会商店街(中京区)から移転してきた。以前の店舗が手狭になったのが理由だ。同社は「まず地元根付き、近隣店舗との連携もできれば」と話す。

シャッターが目立ち始めた商店街の一角に、絵本カフェ「Mébé(めべえ)」がオープンしたのは9月下旬。京都や滋賀に書店を展開するふたば書房(中京区)の系列店で、約600種類の絵本をそろえ、飲食や読書を楽しむ。松田亮子店長は「地今年に入ってから、フラワー

## 家賃値下げ 歴史も魅力

アレンジメント店や美容室、シフォンケーキ店など、多様な顔ぶれが商店街に加わった。

開業が続く背景について、一帯の物件を仲介する不動産会社フラットエージェンシー(北区)は「若い経営者のために入居当初の家賃を下げてくれた人が多い。(テナント事業部)と説明する。来年2月にゲストハウスをオープン予定の下岡莉香さん(30)は昔ながらの魚屋や豆腐屋、銭湯などがある場所を探していた」と、歴史の古い商店街ならではの魅力を出店理由に挙げる。

11月16日には、商店街の活性化策を探るため、新旧の店主が顔を合わせる交流会が予定されている。振興組合の福永泰正理事長(65)は「新規出店者らと協力し、SNS(会員制交流サイト)で既存店の情報を流すなど若者もお年寄りも楽しめる仕掛けをつくりたい」と期待している。